

松 風

令和6年11月22日発行
発行 富山県立富山学園

自然の中の富山学園

園長 米沢 由佳子

車の往来が絶えない県道から、富山学園の門をくぐり、中に入っていくと、外からは見えなかった広い空間が目の前に現れます。

1933年(昭和8年)、現在地に移転し、約9000坪の敷地内で子どもたちは生活をしています。樹齢数十年の大きな木が敷地を取り囲むように生い茂り、中に芝生のグラウンドが広がっています。自然をダイレクトに感じられる環境で、自然の流れが五感に響きます。

週初めの朝礼は一分間の黙想から始まります。目を閉じると、いろいろな音が飛び込んできます。春はウグイス、初夏にはカッコウ、盛夏はアブラゼミ、夏の終わりにヒグラシ、秋には虫の声、雪の日は無音に。風の強い日には近くの海岸に打ち寄せる波の音が聞こえます。心の声に至る前に一分間が過ぎていくことがしばしば。

この環境の中で、子どもたちは、成長に必要な睡眠、食事、健康管理などがあたりまえに守られた、規則正しい毎を送り、自分の身体やこ

ころの状態を意識したり、調整したりしていくようです。

さて、学園の環境に身体もこころも馴染んでくると、毎日の生活指導が生きてきます。社会に参加するために必要な力を培うために、学園職員、分校教員と共に、学習や作業やスポーツなど、様々なことに取り組んでいます。

作業の中の環境整備の一つ、広い敷地の草刈りはなかなか大変です。草の生育に合わせて、ちよくちよく行っています。最近、町中でも草が茂っている、人の手が入っていない場所をあちらこちらで見かけます。自分たちの生活や活動の場所を整え、気持ちよく過ごすためには手がかかる必要があります。ほっておくとあつという間に荒れてしまします。

夏に涼しい木陰を作ってくれる大きな木は秋には落葉します。落ち葉掃きもちよくちよく行っています。

このような自然とともにある学園の生活に近年の気候変動の影響をいろいろ感じるようになってきました。

春の観桜会は始業式、入学式の頃に行い、子どもたちが新しい職員や先生と親睦を深める機会です。最近桜の開花がどんどん早くなり、3月中に開花することもあります。さらに早くなることが予測されており、観桜会の目的が変わりそうです。

夏の気温の上昇は顕著で、5月から30℃を超える日があり、7、8月には35℃を超える猛暑日が続きます。夏のスポーツは野球です。7月上旬の北越四県少年野球大会を経て、8月下旬の全国大会を目指すのが例年です。猛暑の中、こまめに休憩や水分をとり、子どもたちは汗だくになりながらボールを追いかけています。グラウンド横にある桜の大きな木が木陰を作り、海からの風が程よく吹くことになり救われています。今後ますます気温が上昇すると言われており、この時期の野球はどうなっていくのか心配です。

この場所が90年余、子どもたちを育んできました。これからも子どもたちの成長を支える場所であり続けて欲しいと思います。この先どのような生活が待っているのでしょうか。

観桜会

4月3日、今年も恒例の観桜会が開催されました。ここ数年は、満開の桜下での観桜会であり、「桜の花が散ってしまうのでは？」と心配しながらの観桜会でしたが、今年は、気温の低い日が続いており、桜は開花しておらず、つぼみ桜を見ての観桜会となりました。準備中は、雨もポツリポツリと落ち、曇り空の下、男女別、各寮舎に分かれての会食となりました。子どもたちが楽しみにしているBBQ

BBQでは、焼き肉、焼きそば、おにぎりのほかに今年は、串焼き、リブコースも準備しました。肉の焼けた良い香りがしてくると、BBQコンロ周りに集まってくる子どもたちでした。肉をお腹いっぱいにいただき、会話も弾み、満面の笑みを浮かべた子どもたちの姿を見る事ができました。

食後の後片付けは、それぞれができる事を見つけ行い、協力する姿も見られました。

午後からは、体育館でバレーボールの交歓試合を行いました。子どもたちと学園、分校職員と全力で、ボールを追いかけて、声を出し合う楽し

い試合となりました。

(子どもたちの作文より)

野菜の皮をむくのが大変でした。でも、みんなで食べて、おいしいと言ってもらえてとてもうれしかったです。(K・A)

焼きそばは、僕が焼きました。「焼きそばは、麺と野菜を分けて役と美しくなるよ」と教頭先生に教えてもらいました。(S・E)

学園生活の中で、子どもたちにより経験ができる機会をもち、心豊かに成長してくれるよう支援していきたいらと思います。(朝倉)



北越四県少年野球大会

前回大会の経験者がわずか3名の中、野球日課がスタートしました。野球のルールどころか、ボールの取り方・投げ方・打ち方、何もかもが初めての子どもたちがほとんど。ボールに慣れるための練習を何度も繰り返ししました。ボールやグローブの扱いに少しずつ慣れてくると、バットの振り方、ベースランニングの方法など基礎中の基礎の練習を増やし、ひたすら鍛錬する日々。子どもたちは慣れない動きに戸惑いながらも、ボールが取れたとき、バットに当たったときは飛び切りの笑顔を見せてくれました。

日課が進んでいくにつれて、練習以外の時間でもグローブの手入れをしたり、余暇でキャッチボールをしたり、テレビでプロ野球や高校野球を観戦するなど、野球に対して興味を持つ子どもが少しずつ増えてきていました。

さらに、今年のチームの一番の魅力は「一生懸命声を出せること」。みんなで声を出すことを欠かさず練習に励んできました。

練習が進むにつれて、覚えなければならぬルールが増え、その都度

どこに投げるか、どこに走るかを何度も確認することがありました。例えばルールが分からなくても、一生懸命ボールを追いかけて、全力で声を出す子どもたちに、大人も必死で声を出しサポートする姿がありました。酷暑の中互いに切磋琢磨しながら、毎日の練習を頑張り続けてきました。

本番前日、緊張した表情で会場に向かう子どもたちでしたが、会場に着くと、初めて見るこまつドームの迫力に目を輝かせていました。夜は先生方にカレーを作っていただき、皆美味しそうに食べていました。また、夜のミーティングで「チームのまとまりがない」課題が挙げられました。

迎えた翌日。緊張から動きが固く、不安を抱えながら試合を迎えました。石川県立児童生活指導センターと福井県和敬学園がオーブン参加だったため、新潟県立新潟学園と決勝戦となりました。終わってみれば、15対3と3回コールドで学園の勝利でした。しかし実力の差はほとんどなく、序盤の勢いそのままに逃げ切る形での試合展開でした。試合ではグラウンドだけでなくベンチで大人も子どもも必死に声を出していました。全力でプレーをする子

どもたちに、ひと夏の成長を感じました。ただ、「チームでのまとまり」は大会では中々発揮することができず、満足のいく内容ではありませんでした。子どもたちにはこの経験を糧に、これからも様々な活動を頑張っていてほしいです。(山崎)



夏期日課(男子寮)

夏期日課の活動は、午前中は作業と自習(夏期補習)、午後は読書、野球を行いました。季節の行事やイベントにも参加し充実した夏になったと思っています。

作業は普段取りかかりにくいことを中心に、体育館横のハーブスペースの整備を行いました。レンガと防草シートを一度取り外してから整地をしました。防草シートを敷き直し、レンガを組み直して、花壇とハーブ用のスペースを作りました。今後、季節の植物やハーブを植えていきたいです。その他にも、ダイヤモンド除草、園内整備(除草、草集め)にも取り組んでいます。自習、読書は自分の時間として取り組み、宿題を計画的に進めたり、読書感想文を書いたりしました。野球練習は全国大会に向けて練習に取り組みました。夏期日課前にチーム作りを見直す目的で走り込みを行い、夏期日課から本格的に練習を再開しました。暑い中本当によく頑張りました。全国大会の試合は練習の成果を発揮する良い経験になりました。ホテルでの宿泊も普段とは違う環境や雰囲気の中で過ごし良い思い出

になったと思います。園内の夏祭りや調理実習、海水浴、ポップサーカスの招待や高校野球の観戦も楽しく過ごすことができました。

夏の出来事を書き連ねてしまいましたが、様々なことに取り組んでいるのと改めて感じると共に、学園で過ごす日々の充実感や達成感は表現しきれないなとも感じています。夏期日課を終えて、現在はマラソンや生活学習発表会の練習に取り組んでいます。夏に頑張ったことや経験したことが今に繋がっていて、精一杯一つ一つのことに取り組んでいます。これからも共に成長できる存在でありたいです。(稲垣)



夏期日課(女子寮)

今年度も女子寮の夏期日課は作業と野球三昧でした。ラベンダー移植、梅畑の整備、果樹園の管理とやることいっぱいです。

今夏は子ども2人で始まり、ラベンダー畑担当、梅畑担当と別れて実施しました。ラベンダー畑は開拓から始まります。草刈りをして、耕して肥料をまき、ラベンダーを元のラベンダー畑から移植しました。暑い時期であったこともあり、なかなか定植せず、概ね枯れてしまいました。根強く残っているラベンダーもあり、今後見守りたいです。梅畑は雑草の管理に苦慮していたことから防草シートを敷いて雑草の管理しやすくなりました。果樹園の管理については2人で協力して行いました。草の管理と今年度初めに植えた桃が3つ、梨が2つ実が実りました。桃は1つカラスの餌食になってしまいました。残った2つを子どもたちでほんの少しずつ分けて食べました。今年植えた栗も3つ実っています。今から栗ご飯が楽しみです。果樹園、梅畑、ラベンダー畑と敷地は広いですが、これからも実りを楽しみながら植物たちのお世話を女

子寮全員でしていきたいです。

野球では男子に交じり、夏の暑い中頑張りました。しかし、女子が2人しかない中、その2人がなかなか上手くいっておらず、キャッチボールをすれば相手が変なボールを投げると言い合いになり、練習から外れることを繰り返していました。次第に相手を思っただけでキャッチボールでできるようになり、他のペアよりもボールを反らすことなくキャッチボールできるようになりました。体力面では男子に合わない分、声を出し一生懸命取り組みました。全国大会にも2人ともレギュラーとして出場してきました。

1か月以上ある夏期日課でしたが、やることいっぱいであつたという間に終わってしまった。8月末には新しい仲間も加わり3名での生活が始まったところです。夏期日課で成長した2人と新しく加わった仲間、良い寮生活を作っていたらと思っています。(井澤)

全日本少年野球大会

群馬県で開催された第75回全日本少年野球大会に参加してきました。大会期間中に大型の台風が日本列島を襲った中、準備や運営の修正等、群馬県立ぐんま学園の先生、関係者の皆さまのお陰で無事に大会に参加できたことに感謝いたします。

富山学園の野球、野球に限らずスポーツ活動は生活指導の一環として行っています。また、男子寮・女子寮、職員、ともに同じ活動、同じ目標で日課を行うことで施設としての一体感が生まれ、指導のずれや違いの差も少なくなり、集団として施設としてまとまりが生まれます。学園にとって野球日課はその年の学園として子ども、大人ともにまとまり1年を生活していくスタートになる大事な時間でもあります。

北越大会に勝利しましたが、チームとしてまとまりがなく、このままだと全国大会に記念参加しただけになってしまい、その後の生活も低調なものになると危惧しました。

北越大会後、野球道具を全て片付け、走り込みを2週間行いました。小まめな水分補給や休憩をはさみ

ながらも、夏の暑さに大人も子どもも倒れそうになりながらも必死に走りました。その中で、子どもたちの表情も次第に変化していき、強くなり、野球がしたい、上手くなりたい、勝ちたいと感じる子どもが増えていきました。

全国大会に出場することは、同じ境遇で頑張っている他の施設の子どもたちを見るのが出来るチャンスです。施設の特性上、表立った交流はないのですが、他の施設の子どもの立ち居振る舞いや、会話、食事の様子を見るだけでも刺激と学びになります。実際、大会中は関西のチームの体つきやご飯の食べる量に圧倒され、負けたくないとおかわりを普段以上にする子どもがいたのは微笑ましかったです。

大会は台風の影響から試合時間の短縮された特別ルールで開催されました。初戦の群馬県立ぐんま学園との戦いは初めに学園が4点を取りリズムを掴みましたが、群馬県立ぐんま学園が追い上げを見せ、4対4の同点で抽選となる大接戦となりました。抽選も5対4と僅差となりましたが、10年ぶりに全国大会で勝利することが出来ました。残念ながら2回戦で静岡県立三方原

学園に2対5で敗れましたが、子どもたち、そして職員にとっても忘れられない思い出とこれから過ごす生活の活力になりました。また試合中でもどんどん上手くなる子どもたち、もつとつと試合を見たいという思いに駆られ、改めて子どもたちの成長の早さや環境によつてみんなにも変わるのかと驚かされました。

4月からの5か月間、雨の中、暑い中、子どもたちと汗を流してくれた先生方、食事や水分補給、遠征費の事務作業等、支えてくれた先生方、また、面会や職員戦、大会にて子どもたちを応援してくれた保護者の皆さま、児相等関係機関の皆さま、本当にありがとうございました。(小泉)



夏祭り

夏休みも終わりに近づいた頃、夏の最後の思い出作りに夏祭りを行いました。

今年のメインはみんな大好きBQ！普段なかなか見ることのない1.3kgの大きな肉の塊やバーベキュー串もあって、子どもも大人も大喜び！デザートのかき氷までお腹がいっぱいになるまで食べました。

食後にはスイカ割りや花火を楽しみました。人生で初めてスイカ割りをする子どもが多く、まっすぐ歩くことの難しさや、スイカを割ることのできないもどかしさを感じつつ、夏の楽しい思い出のひとつとなりました。日頃の生活を丁寧にし、楽しむときは思いっきり楽しむ、メリハリのある生活をこれからもみんなと一緒に過ごしていきたいと思っています。

(笹林)



海岸清掃

今年度の海岸清掃は、1回目を6月9日に、2回目を10月25日に実施しました。

学園では、サイクリングロードをよくランニングコースとして利用しています。子どもたちは爽やかな海風を感じることができ、海岸沿いでのランニングを、楽しみにしています。そのため、身近な海岸を美しくしようと一丸となって頑張りました。ペットボトルなどのプラスチックごみ、缶、タイヤ、流木などたくさんのごみが落ちており、子どもたちは大変驚いていました。約1時間半にわたる清掃の中で、一つひとつのごみを手作業で拾い、少しずつきれいになっていく海岸を見て、こどもたちはとても晴れやかな表情をしていました。集めたごみ袋の数は、計20袋ほどになりました。学園での海岸清掃は「社会奉仕の心を養う」目的で実施しています。奉仕活動が、自分たちの心を豊かにすることに加えて、地域のためになるということをお子さまたちに伝えていきたいと思っています。引き続き、地域のために活動していければと思います。

(中村)

漢字検定

富山学園では今年度3回（6月、8月、2月）漢字能力検定を実施しています。富山学園は準会場として認定されており2級から10級までの受検が可能です。

分校の先生方のご協力もあり、効率よく検定の学習ができ、受験日が近くなると毎日の自習時間はもちろん、余暇時間にも漢字検定の勉強に熱心に取り組んでいます。

合格証書をもたらした子どもは一生懸命勉強した成果が出たと嬉しそうに表情をして次の級に挑戦するぞと意欲を持ち、また、そうできなかった子どもは、合格証書を見て次こそ合格だと意欲を持って、お互いに刺激し合って一生懸命に取り組んでいます。

(城戸)

漢検



ほたるいかマラソン

今年度も10月13日に開催されるほたるいかマラソンにエントリーしました。

8月末で野球は終わり、9月からランニングが始まりました。野球ではまとまりがないチームと言われており、ランニングへの取り組みも心配されましたが、毎日毎日3キロ、5キロ、7キロ、30分間走、1時間走、インターバル走、サーキットトレーニング等のランニングメニューを毎日毎日一生懸命取り組みました。日々タイムを更新したり、伸び悩んだりもありましたが、前向きに取り組めました。

大会本番は初めて参加する子どもたちも多く、緊張やドキドキで不安な様子でしたが、走り出したら全力疾走で、自己記録を更新する子どもがほとんどでした。男子中学生で3位と5位入賞。女子中学生で6位入賞という成績も残せました。学園に戻ってきた子どもたちは、とても良い顔をしていました。

ほたるいかマラソンが終了しても、11月上旬の駅伝大会までランニングが続きます。マラソン大会では個人でのランニングでは自己の

記録をどんどん伸ばしました。駅伝大会ではチームとしてタスキをつなぎます。

これまで1か月間以上ランニングを頑張ってきました。駅伝大会で全力で走り、タスキをつなぎ今年ランニングをしめくくれたらと思います。
(井澤)



松風の読書活動

松風分校の子どもたちは、年間に約100冊の本を読んでいます。朝の時間や、寮での読書時間などに積極的に本を読む姿が見られます。図書室にも様々なジャンルの本が並んでおり、毎年多くの本が新着図書として追加されています。本を選ぶこともたちの姿は、とても嬉しそうで、はやく物語の世界を楽しみたいといった気持ちたちが伝わってきます。

今年度から、松風分校に「自動車文庫」が来ることになりました。自動車文庫には富山市立図書館の本が所狭しに並べられています。子どもたちがリクエストしたジャンルの本も準備され、月に1度の自動車文庫の日を楽しみにしています。

10月に行われた読書月間では、「読書郵便」に取り組みました。くじ引きで決められた相手に読んでほしい本のあらすじやおすすめのポイント等を書いて紹介する活動です。年齢の違う相手にはがきを書くので、その人に喜んでもらおうと一生懸命に本を選ぶ姿が見られました。普段、自分では選ばない新たなジャンルの本を読むきっかけとなり、もらった本がきに書いてある本をすぐに借りて、嬉しそうに読む姿が見られました。

子どもたちには、これからも沢山の本と出会うことで、言葉を学ぶだけでなく、想像力や表現力を高め、より豊かな生活を送ってほしいと思っています。
(湯口)



善意を寄せてくださった方々

- ・生け花 毎月 (長崎様)
- ・間食寄付 (サクラギ古河徳様)
- ・ペニンシュラ月餅寄付 9月 (ペニンシュラマーチャンダイジ
ングジャパン合同株式会社様)
- ・お米寄付 10月 (株式会社 たつ通信工業様)

《編集後記》

今年度も多くの皆様のご協力、ご支援を頂き有難うございました。日々の生活や行事を通して、子どもたちのたくさん笑顔や頑張りが見られ、有意義な学園生活を送ることができました。これからも、子どもたちと共に学び続けたいと思います。

今後とも、多くの皆様のご協力、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。
(島田)

